

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：教務機構	担当部局：教務機構
大項目	6 教育内容・方法・成果（研究科）《全学的な視点》	
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示	
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。	
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法	
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	
要素		

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各研究科の、課程・専攻ごとに教育目的を学生に明示し、社会に公表する。	→学則、本学ホームページにおける人材養成目的の明記	A	A	A	A	/
2. 学位取得プロセスモデルを学生に明示する。	→規程、内規、履修心得での学位取得プロセスの明記	B	B	A	A	/
3. 標準修業年限内の博士学位授与率を上げる。	→博士後期課程入学から博士学位取得までの平均年数や授与率など	C	C	B	B	/
4. 教育研究上の目的、教育課程の編成・実施方針を適切に管理し、定期的に検証を行う。	→カリキュラムを検討する委員会の開催	B	B	B	B	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度においては、人材養成目的、教育理念・目的・教育目標、3ポリシーを本学WEBサイトに公表し、閲覧が可能となった。2012年度においては、一部の研究科を除き、各研究科WEBサイト、履修心得等への公表を完了した。
目標2	2011年度において、全研究科の学位取得プロセスモデルを本学WEBサイトおよび研究科WEBサイト上に公表した。2012年度においては、さらに学生へ周知する方法として、一部の研究科を除き履修心得への掲載をほぼ完了した。
目標3	博士学位記授与数は近年順調に増加しており、2009年度36名、2010年度51名、2011年度60名、2012年度52名である。しかしながら満期退学者による再入学者、論文博士を含んでおり、標準修業年限内の授与数は僅少である。
目標4	2012年度は各研究科のFDを推進する組織として研究科独自のFD委員会を設置した。各研究科ではFD委員会を中心に大学院FD部会と連携し、教育研究上の目的、3ポリシー等の適切性の検証に取り組み始めたばかりである。
備考	